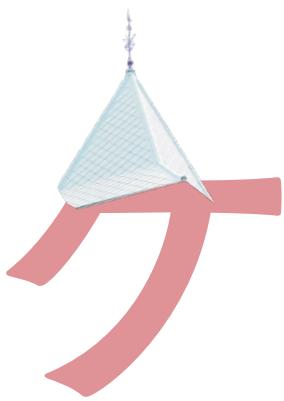
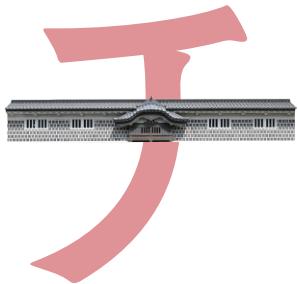


建築の本



はじめに

みなさん、**ケンチク**(建築)という言葉を聞いたことがありますか? みなさんは家でご飯を食べたり、寝たりするでしょう。この家そのものや家をつくることが**ケンチク**(建築)です。

この本は、わたしたちの身の回りにある**ケンチク**(建築)について、写真や絵でわかりやすく教えてくれます。みんなで**ケンチク**を楽しみましょう!

この本の使い方

最初のページから読んでも、好きなページから読んでもかまいません。
開いたページには、見開きで【知る】しる 【見る】みる 【考える】かんがえるが用意してあります。【知る】は、ケンチクについての大切なこと、おもしろいことが書いてあります。【見る】は、そのテーマに合った金沢市内のケンチクを紹介しています。ぜひ本物を見に行ってみましょう。【考える】は、そのテーマについての問題が書いてあるので、みなさんが考えたことを自由に書いて、自分だけの本にしてください。

「かなざわケンチク探検マップ」は、金沢市内の代表的なケンチクの場所を示した地図です。この地図を持ってケンチク探検に行きましょう。この地図に書いていない、お気に入りのケンチクを見つけたら、地図に印をつけて数を増やしてくださいね。



1 ケンチクって何なの?

ケンチクは建物・施設・構造物などを指す言葉です。古くから日本では木造の建物がほとんどでした。そのため、その頃の建築技術や材料、工具などに特徴を持ちました。それが現在の建築文化や建築技術にも影響を与えています。ケンチクのもう一つの特徴として、伝統的な技術や手作業で建築されてきた点があります。それは、現代の建築と比べて資源の消費量が少ないなど、環境への配慮などから注目されています。また、伝統的な建築は、当時に適応できるよう工夫されています。

みほん

アカリ通は、織文時代の村の跡です。庄屋の蔵やクリの大木を部分に削った柱を円形に並べた跡が発見されました。

どんな道具で大木を加工したんだろう?



きた
北

かなざわケーブチク探検マップ



※チカモリ遺跡と大乗寺と金澤海みらい図書館はこの地図には示されていません

ここに記したケンチク以外にも
たくさんのお宝ケンチクがあるよ!
自分が見つけたケンチクを地図にマークしよう!

①色ガラスが
きれいな神社



②建築家の
親子が設計



③昔の学校の
校舎



④畠屋さんが
作業する町家



⑤木造
3階建ての町家



⑥江戸時代の
町家でひと休み



⑦タイル張りの
洋風建築



⑧昔は
銀行だった



⑨朱色に塗られた
豪華な神社

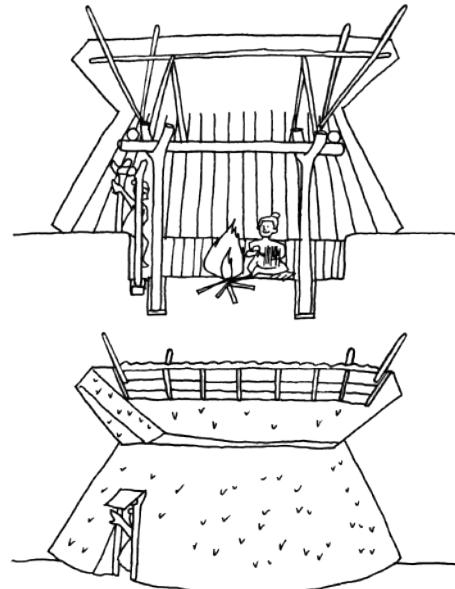


⑩美術館の
庭園にある茶室



気になったことをメモしよう!

ケンチクって 何なの？



ケンチクは雨や風、動物から身を守り、安心して暮らすためにヒトがつくったものです。原始時代、ヒトは食べ物を探るために場所を移動していく暮らしていました。その頃は自然の洞窟や木を簡単に組んで動物のかわ皮などを張ったテントのような**ケンチク**で暮らしていたと考えられます。その後、農耕が始まるとひとつの場所で暮らすようになり、道具も進歩して材料の加工ができるようになりました。生活に必要な火を消さないことも大事なことになりました。その頃になると、地面に掘った穴に木材を立てて骨組みをつくり、草や土でおおう**ケンチク**だったと考えられます。やがて、食物を保管したりするために床の高い**ケンチク**もつくられるようになりました。

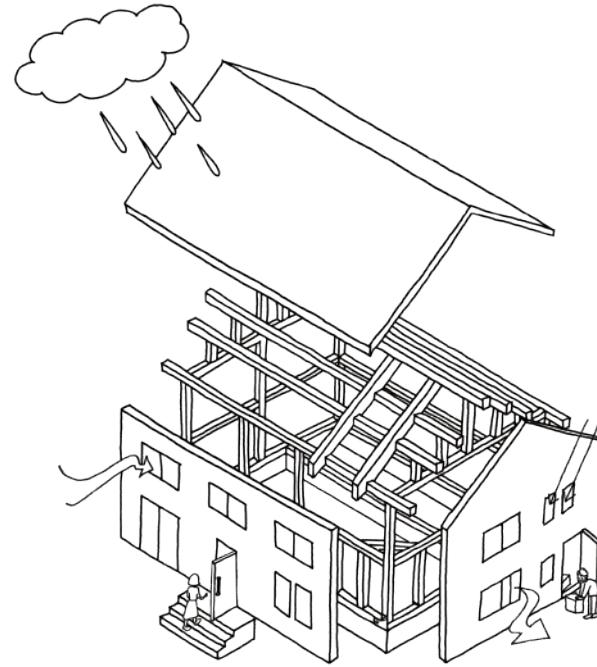


～かなざわケンチク探検～
チカモリ遺跡は、縄文時代の村の跡です。住居の跡やクリの大木を半分に割った柱を円形に並べた跡が発見されました。



どうぐ　たいぼく　かこう
どんな道具で大木を加工したんだろう？

ケンチクは どのようにつくられている？



ケンチクはいくつかの必要な部分が組み合わされてつくられています。まず、雨などを防ぐために屋根が必要です。屋根がないものはケンチクとはいません。次に、ケンチク自体を支えるために柱や壁が必要です。壁にはケンチクの中と外を分ける役割もあります。また、ヒトが暮らすためには、光を入れたり、よごれた空気を入れ換えるための窓と、ヒトや物が自由に移動するための出入口も欠かせません。ケンチクをつくる材料にはいろいろなものがありますが、主に使われている材料によって、そのケンチクを木造、レンガ造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造といった呼び方をします。



～かなざわケンチク探検～
かなざわし みんげいじゅつむら たんけん
金沢市民芸術村は、レンガ壁のケンチクで元々は工場
の倉庫でした。今では演劇、音楽、美術などの練習場になっています。隣にある金沢職人大学校は、ケンチクをつくるいろいろな職人さんたち(石工、瓦、左官、造園、大工、畳、建具、板金、表具)が昔ながらの技術を学んでいる学校です。



職人さんは、ケンチクをつくるとき
どんな仕事をしているのだろう？



かなざわし しょくにんがくこうとう
金沢職人大学校
だいわまち
(大和町1-1)

屋根に注目しよう!



ケンチクの屋根にはいろいろな種類があります。ほとんどの屋根が斜めになっていると思いますが、これは、屋根に降りかかる雨や雪を自然に流し出すためです。反対に、平らな屋根は、屋根裏が部屋として使いやすく、屋根の上を屋上として使うこともできます。屋根に使われる材料もいろいろで、最も身近なものは瓦だと思います。瓦のほか原始時代から多く使われてきた材料が、稻わら、ススキやヨシなどの草です。このほか、木の皮や板を材料にした屋根もあります。現在は鉄や銅などの金属やスレートと呼ばれるコンクリートなども材料として使われています。



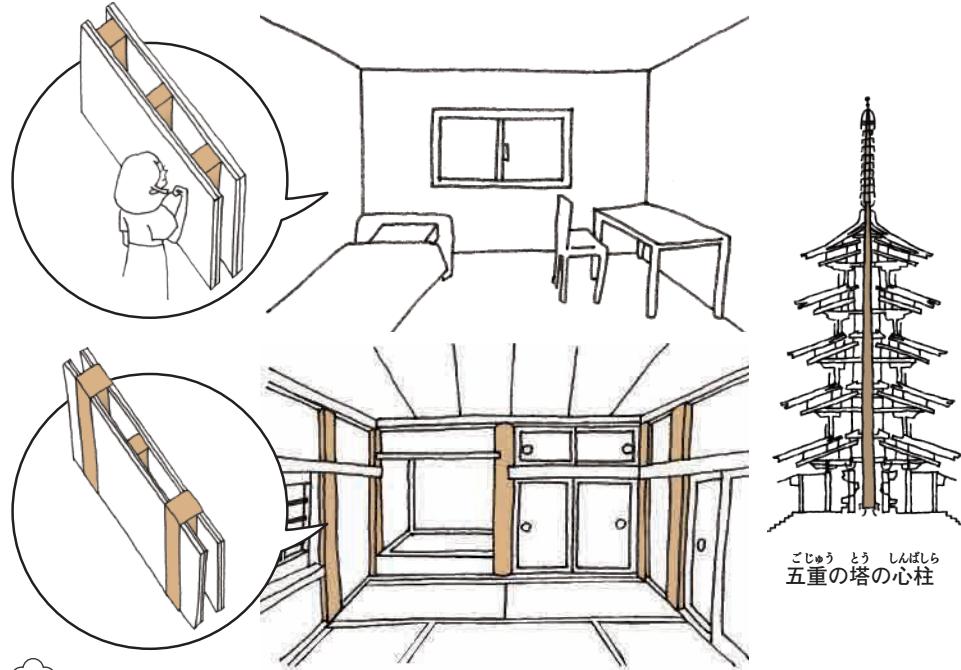
～かなざわケンチク探検～

大乗寺は、江戸時代中ごろに建てられた大きなお寺です。仏殿の屋根はこけらと呼ばれる木の板を何枚も重ねてつくられています。旧森紙店は、まちなかに残る最後の板葺き屋根の町家です。屋根板が風で飛ばされないように石を置いています。昔はほとんどの町家が板葺きでした。



自分の家の屋根のかたちはどんなかたち？
材料は何か？

柱に注目しよう!



柱は1本1本がむきだしで目に見えるものや、壁の中にあって表から見えないもの、その一部だけが見えているものがあります。柱を横に切るとほとんどが四角形か円形をしています。特に太く長い柱が必要なときは、何本かの柱を組み合わせて1本の柱にしているものもあります。ケンチクは多くの柱でつくられていますが、中でも一番太くて大きな柱を**大黒柱**と呼ぶことがあります。また、お寺で見かける五重の塔の中心には一番上まで伸びる1本の大きな柱があり、これを**心柱**と呼びます。**心柱**は地震の揺れで塔が倒れないようにするための重要な役割があり、この仕組みは東京スカイツリーにも使われています。

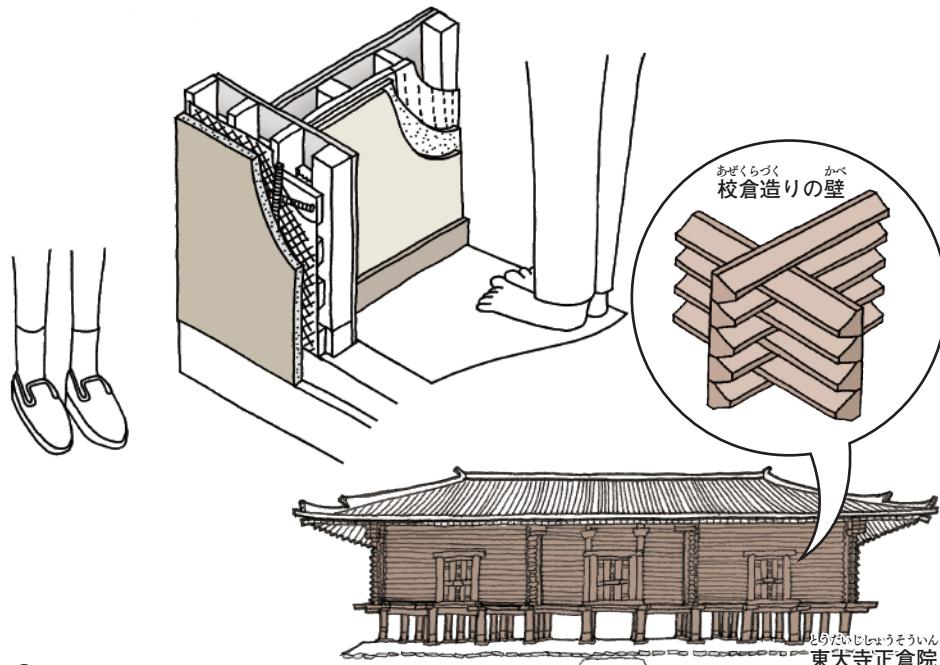


～かなざわケンチク探検～
たんけん
本願寺金沢別院は、まちなかにあるお寺です。江戸時代に建てられた大きな本堂には何本もの太い柱が使われています。**聖霊病院聖堂**は、昭和の初めに建てられた木造の教会です。内部には漆塗りの円柱が立ち並んでいます。



自分の家の柱を探そう!
太さは何センチあるかな?

壁に注目しよう!



壁には土、漆喰、木、レンガ、石、コンクリート、タイルのほか鉄やアルミなどの金属、ガラスなどいろいろな材料が使われています。木造のケンチクが多い日本では、柱と柱の間を埋めるように土や漆喰、木などで壁がつくられてきました。木は湿度によって大きさが少しあわるので、この性質を利用して自然に空気を通すことができる校倉造りと呼ばれる壁があります。奈良の東大寺正倉院は、この壁のおかげで千年以上も前の宝物をきれいな状態で残すことができました。レンガは、外国では古代文明の時代から使われてきた材料ですが、日本では明治時代になって使われるようになりました。金沢21世紀美術館のようなガラスの壁には中と外を分ける役割はあります
が、ケンチクを支える役割はありません。



～かなざわケンチク探検～

石川県立歴史博物館は、元々兵器庫だったレンガ壁のかべケンチク3棟でできています。明治時代に建てられたものと大正時代に建てられたものがあり、少し違うところがあります。金沢21世紀美術館は、妹島和世さんと西沢立衛さんが共同で設計した美術館です。円形のまわりをガラスが囲っています。



いしかわけんりつめいじゅつかん
石川県立歴史博物館



かなざわ せいきびじゅつかん
金沢21世紀美術館

今と昔の壁の違いはなんだろう？

窓や出入口に注目しよう!

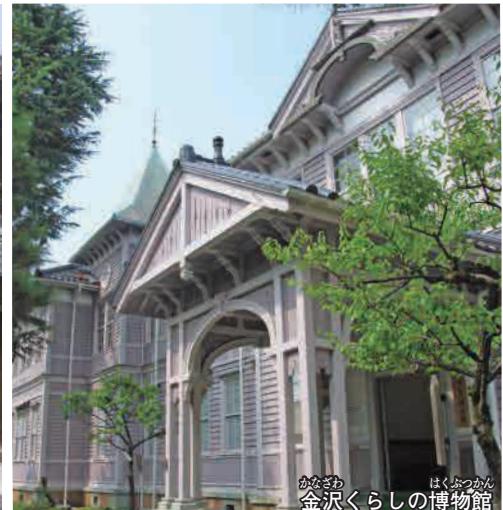


おもむかし まど かべ 大昔の窓は、壁にあけた穴に木や草でフタをしたようなものだったの で、閉じていると中は暗く、風も通りませんでした。日本では和紙を張つた障子窓ができると閉じていても少し明るいようになり、ガラス窓や網戸ができると閉じたままでも光や風が入るようになりました。窓には、戸を左右や上下に移動するものや外側や内側に開くものがあり、形や大きさもいろいろです。出入口は玄関など外に面するものや部屋と部屋の境にもあります。外に面する出入口はどろぼうが入ってこないよう、厳重な鍵の付いた扉が付けられます。昔ながらの町家には、前面をシャッターのように全開できる板戸や玄関にくぐり戸の付いた大きな木の扉が付いていたり、正面の窓にきれいな格子が付くものもあります。



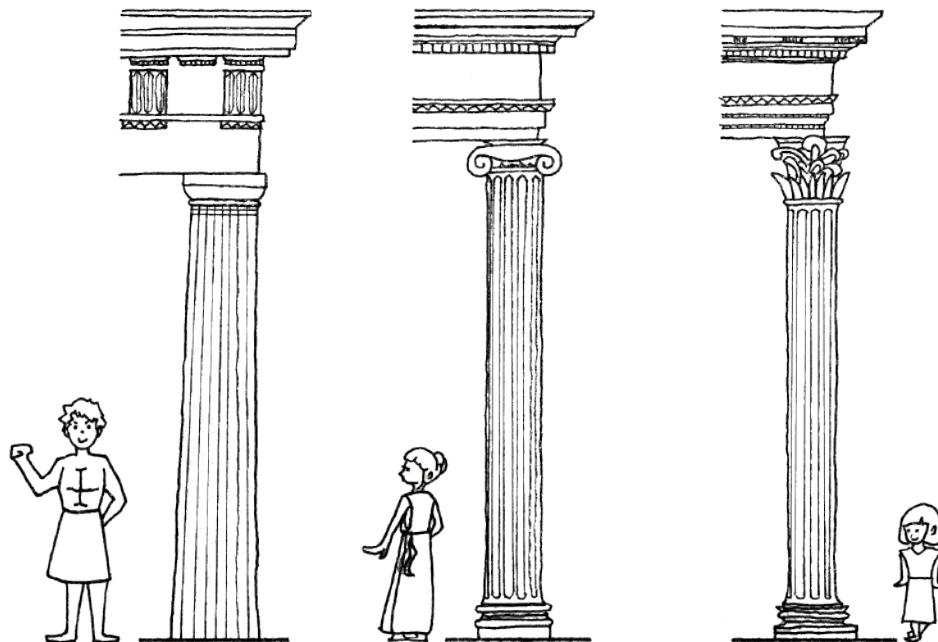
～かなざわケンチク探検～

かなざわまちやじょうほうかん 金澤町家情報館 は、元はお米屋さんの町家でしたが、中身は現代生活に合ったモデルハウスに改造されています。今でも昔ながらの家の窓や出入口の様子を見ることができます。かなざわはくぶつかん 金澤くらしの博物館 は、元は学校の校舎でした。尖った塔が立っている特徴的な建物で、玄関や窓は洋風です。



どのような窓や出入口があつたらいいと思う？

かたちに注目しよう!



ケンチクは必要な部分が集まって、全体を**かたちづくり**、その美しさや個性を生み出しています。屋根は**かたち**や大きさ、材料の違いによって美しさや存在感を最も感じさせる部分です。柱には上部を彫刻で飾られたもの、全体に模様が刻まれたものや材料の特徴を生かしたものなどがあります。古代ギリシャの神殿の円柱にはエンタシスと呼ばれるゆるやかなふくらみがあり、同じデザインを奈良の法隆寺の柱にも見ることができます。壁はヒトの顔のような部分で、材料や表面の仕上げを変えることで個性が出てきます。窓や出入口は壁に付いていてとても目立つので、その位置や**かたち**、数や大きさによって**ケンチク**の見え方が大きく変わります。



～かなざわケンチク探検～

金沢城は、城下町の中心で今でもまちのシンボルになっています。金沢城の屋根は木の屋根に鉛の板を張った鉛瓦です。また、壁は、なまこ壁と呼ばれる四角形が連続したデザインになっています。**金沢海みらい図書館**は、壁に並んだ丸い窓が特徴の図書館です。その数はおよそ6,000個もあり、それぞれの大きさやガラスの種類が違っています。



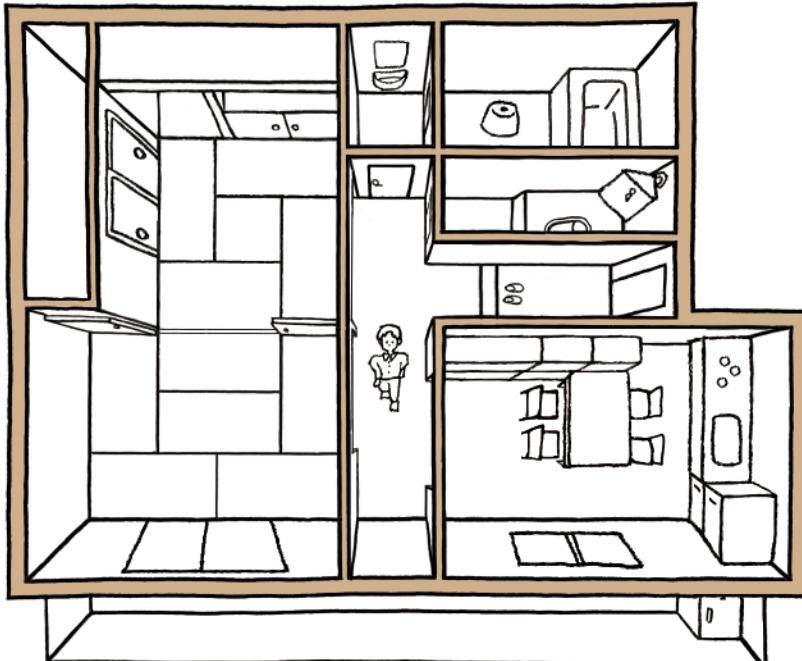
普段目にしている**ケンチク**で気になる**かたち**のものはないかな？



かなざわうみ
としづかん
金沢海みらい図書館
まるうち
(丸の内)

かなざわうみ
としづかん
金沢海みらい図書館
じちゅうまち
(寺中町イ1-1)

部屋のつながりに 注目しよう!



みなさんの家の様子を思い出してください。家の中には居間、食堂、台所、風呂、トイレ、こども部屋、寝室、物置などいろいろな部屋があると思います。このような部屋のつながりや並び方を間取りと呼びます。間取りでは、暮らしやすさを考えることがとても大切です。例えば、居間は家族の集まるところなので広くて陽当りのよい場所がふさわしく、台所と食堂は隣同士の方が料理を運びやすくなります。家だけでなくいろいろな使われ方をするケンチクには、それぞれふさわしい間取りがあります。しっかりと考えられた間取りは、心地よさがあります。ケンチクの間取りを考えることはそのかたちを考えることと同じくらい大切なことです。



～かなざわケンチク探検～
成巽閣は、江戸時代に加賀藩主のお殿様のお母さんのために建てた御殿の一部です。畳を敷いた多くの部屋があります。部屋を仕切るふすまを開けると、部屋同士がつながって大きな部屋になります。国立工芸館は、日本海側にはじめてできた国立の美術館です。別の場所にあった明治時代に軍隊が使っていたケンチクが現在の場所に移されました。それぞれ出入口を中心に左右対称の間取りになっています。



せいそんかく 成巽閣
けんろくまち (兼六町1-2)
でわまち (出羽町3-2)

間取りを考えるとき
一番大事にしたいなと思うことは何かな？



まわりに注目しよう!



しる

ケンチクをつくるときは、ケンチクだけではなく、そのまわりを考えることも大切です。例えば、木や花を植えて庭をつくるとケンチクやまちが美しく見えるようになります。ヒトが生活するケンチクが集まってまちはできています。ヒトそれぞれに考え方があるので、つくられるケンチクの大きさやかたち、材料や色は異なります。でも、だからといってみんなが好き勝手にケンチクをつくってしまうと、まちにまとまりがなく、美しいまちになってしまいます。そのため、ケンチクをつくるときには守らなければならぬルールがあります。金沢市は、全国で初めてまちの景観を守る条例をつくり、みんなでそのルールをしっかりと守ってきたので、全国に誇る現在の美しいまちの姿があります。



みる

～かなざわケンチク探検～

鈴木大拙館は、建築家の谷口吉生さんが設計しました。ケンチクの高さを低くしてあるので、まわりにある多くの樹木や大きな水鏡の庭が、ケンチクを美しく見せています。長町武家屋敷跡は、江戸時代に武士が住んでいたまちです。現在でも土堀で囲われた建物が並び、そのまわりには多くの木が植えられていて、まちなかですが静かで落ち着いた様子を見せてています。



かんがえる

まわりのことを考えて守らなければならないルールにはどんなことがあると思う？



ながまちぶけやしきあと
長町武家屋敷跡
(長町1~3丁目)

ほんだまち
(本多町3-4-20)

かなざわ 金沢のまちはケンチクの宝箱 って、どういうこと？



しる

かなざわ　えどじだい　じょうか　まち　げんない　こせい　おお
金沢は江戸時代につくられた城下町をもとに、現代までまちの個性を大
きく失うことなく、時代に合わせてまちがつくられてきました。幸いな
ことに金沢は戦災や大きな災害を受けることがなく、市民が大切にまち
を守ってきたので、今でもみなさんは江戸時代から現代までのいろいろ
なケンチクを見るすることができます。城下町の中心だった金沢城、お寺や
神社、武家屋敷、町家など江戸時代のケンチクや明治時代の外国の文化
を取り入れてつくられたケンチク、そして高層ビルや世界的に有名な建
築家が設計した美術館や図書館など現代のケンチクがあります。このこ
とが、金沢をケンチクの宝箱と呼ぶ理由です。私たちは、この世界に誇る
金沢の宝をこれからも大切にしていかなければなりません。



～かなざわケンチク探検～

ほうせんじ　うたつやま　なか　てら　けい　たい
宝泉寺は、卯辰山の中ほどにあるお寺ですが、境内から
はいろいろなケンチクが建っている現在の金沢のまち
の様子を見ることができます。



かなざわ　いちばん　たから　なん　おも
金沢で一番のお宝ケンチクは何だと思う？
その理由は？

ほうせんじけい　なが
宝泉寺境内からの眺め
こらいまち
(子来町57)

きみが面白いと思うケンチクを
考えてみよう!

① どのように使われるケンチクなの?

② どこにつくるの? (まちのなか、山の上、海の側、森の中…)

③ 何を使ってつくる? (木、石、レンガ、コンクリート、鉄骨…)

④ かたちや色は? (屋根、壁、窓…)

⑤ あったら面白いと思う
ケンチクの絵を自由に描いてみよう

たに ぐち よし ろう たに ぐち よし お き ねん
谷口吉郎・谷口吉生記念
かな ざわ けん ちく かん
金沢建築館

みる



©北嶋俊治

てらまち
(寺町5-1-18)

しる

たに ぐち よし ろう よし お き ねん かなざわ けんちく かん れいわ がんねん がつ にち
谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館は、令和元年7月26日にオープ
ンしたケンチクのミュージアムです。金沢は、江戸時代から現代
までのいろいろな時代のケンチクが建ち並んでいるので、金沢か
らケンチクの様々なことを広く発信していくためにつくられま
した。建物は、日本を代表する建築家の一人で金沢市名誉市民第
一号の谷口吉郎さんが暮らした家の跡地に、吉郎さんの長男で世
界的に有名な建築家谷口吉生さんの設計でつくられました。
館内には、谷口吉郎さんの代表的なケンチクのひとつである迎
賓館赤坂離宮和風別館游心亭(東京都港区)の広間と茶室を実物
大で再現しており、ケンチクやまちをテーマにした展覧会やイベ
ントを開催しています。

索引

- 1 ケンチクって何なの? P1
- 2 ケンチクはどのように造られている? P3
- 3 屋根に注目しよう! P5
- 4 柱に注目しよう! P7
- 5 壁に注目しよう! P9
- 6 窓や出入口に注目しよう! P11
- 7 かたちに注目しよう! P13
- 8 部屋のつながりに注目しよう! P15
- 9 まわりに注目しよう! P17
- 10 金沢のまちはケンチクの宝箱ってどういうこと? P19
- 11 きみが面白いと思うケンチクを考えてみよう! P21

建築の本

2020(令和2)年 9月1日発行

発行者:金沢市都市政策局企画調整課
協力:谷口吉郎・吉生記念 金沢建築館

〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
TEL(076)220-2031

むだん ふくせいてんさい きんし
※無断での複製・転載は禁止します。

歴史の本
元

